

表紙のことば

写真と文：鈴木正美

箱根山の西麓に広がる野菜畑。静岡県三島市の三ツ谷地区で作られる「三ツ谷ハクサイ」は冬野菜のまさに王様。山あいの圃場を訪れると、頭の部分を1玉ずつ縛られたハクサイが整列していた。

地元で生まれ育った3代目、後藤大輔さんにハクサイの収穫を見せていただいた。冬の空を映し、渋い輝きを放つ包丁でハクサイの芯を整える。ここには大輔さんのこだわりがある。

「早く雑にすることは簡単。自分としてはゆっくり時間をかけて丁寧にやりたいと思うんです。効率が悪くても雑にならないように。売り場で



は分からないかもしれませんが、同じ農業者には分かってもらえるかな」大輔さんは根っからの職人体質だ。切り口からそれが伝わってくる。

大学卒業後、11年ほど祖父と父に師事し、農業を実践していく。順調に進んでいた農業。しかし祖父が亡くなり、父までが病に倒れる。「やっと仕事を覚えて、規模を大きくできるかな？」と思った矢先でした。今

は母と2人でやっています」

大学生のとき、大輔さんはカリフォルニア州サンディエゴの農場で働いたことがある。都市近郊の多品種を栽培する農場で慣れない共同生活。メキシコ人も多く、英語も通じない。仕事に終わりがなく、体力的にも精神的にもつらいものがあった。「あの1年があったから、何でも耐えられるんです」

JAグループ 共通コンテンツ

食・農・地域の暮らしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ（JA新聞連『JA広報通信』にて提供中）。今年度は、「変わるJA 広がる地域のきずな」をテーマに毎月Q & A方式で解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資料として、ぜひ活用ください。

変わるJA 広がる地域のきずな

監修＝広島大学 助教 小林 元

Q、JAの自己改革で農家は元気になるの？

A、現場のニーズに応え、農家の所得増大と生産の拡大を支えます。

JAグループは、自己改革で「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標を掲げています。「農業者の所得増大」は、①有利販売による単価アップ ②需要に応じた生産量の拡大 ③生産コストの引き下げ——によって達成します。「農業生産の拡大」に向けては、農業生産基盤の維持・拡大のため、次世代の担い手の育成を進めます。また、「販売品取扱高の拡大」を共通目標とし、組合員と課題を共有し、知恵を出し合いながら取り組んでいきます。

JAグループは、JAグループがめざす姿として、「消費者の信頼にこたえ、安全で安心な国産農畜産物を持続的・安定的に供給できる地域農業を支え、農業者の所得増大を支える姿」を掲げています。地域農業や国産農畜産物への消費者の理解を広げ、農業の応援団を増やすための活動も行っています。地域の皆さんの協力の力で、地域農業とその主人公である農家が元気になるための取り組みを、自己改革を通じてより一層進めていきたいと思います。

「農業者の所得増大」の考え方



注) 共通目標として掲げる「販売品取扱高の拡大」は、有利販売による販売単価のアップと生産拡大を反映した「農畜産物等の販売収入」に加えて、政策活用や6次産業化等による利用・加工事業を含めたものとします。

耕そう、大地と地域の未来。